北多摩西ニュース
No.10
国分寺市光町1-40-12
Tel 042-576-1161(代)
Fax 042-575-0529
E-mail：
kitanisi@crux.ocn.ne.jp
ホームページ：
http://kitanisi.org/
東京都教職員組合
北多摩西支部情宣部
全教職員配布

2022勤務実態調査より

教員不足・病休・多忙化深刻に…

時間外勤務の平均（全職種・全校種）　「全教職員実態調査 2022」より一部紹介

	校内での時間外勤務	持ち帰り仕事時間	時間外勤務の合計
平　日	3時間51分	24分	3時間15分
土　曜　日	2時間30分	41分	3時間11分
日　曜　日	1時間10分	1時間00分	2時間10分
月の合計	**76時間47分**	**15時間47分**	**92時間34分**

教職員の未配置が、全教の調査だけでも昨年5月に1028名（24都道府県政令都市）、10月には1642名と全国に広がっています。文科省や教育委員会では未配置の要因は、「定年前の退職者が、予想以上に多く、新規採用者で補充できなかった。4月当初、正規職員を配置できない分を非正規の教員で補うことが増え、年度途中に欠員が生じた際、代わりが見つからない」などとしています。

過酷な勤務実態が明らかに！全教勤務実態調査（2022年10月下旬の1週間実施）

全教は、全国の教職員の年代別・校種別に255名、北多摩西支部では小学校38名、中学校20名の方に協力していただきました。その結果、校内での時間外勤務は一ヶ月の合計で76時間47分、10年前の調査より2時間増えていることが分かりました。文科省や教育委員会は「働き方改革が進み、時間外勤務が減っている」と言っていますが、そうではありません。さらに、持ち帰りの時間合計は1ヶ月で15時間47分、これらの時間は文科省調査ではカウントされていません。校内での時間外そして持ち帰りの仕事を合計すると1ヶ月で92時間34分でした。また、月80時間の過労死ラインを超え、100時間を超えている教職員が36・1%でした。

教職員本来の仕事にかける時間を！先生増やそう！

調査では78・7%が「仕事量が多すぎる」と回答し、「仕事にかける時間を減らしたい」ことの中で最も多いのが「教育委員会への報告書などの作成」でした。逆に「もっと時間をかけてみたいこと」の中で最も多いのが「授業・学習の準備」でした。最後に「長時間過密労働を解消するために何が必要か」に対し、最も多かったのは、「教職員の数を増やす」が89・7%でした。この調査で教職員のよりリアルな勤務実態が明らかになりました。長時間労働をなくすよう強く求めていきましょう！

学校の窓

恥ずかしがり屋で、特に集団の中で自分の意見を言うのが苦手なA子さん。家族と一緒に通級していました。▼学習するときの彼女は、すぐに「わからない」と言って答えを教えて欲しそうに、チラッとわたしを見ます。そのたびに、「いいぞ、偉いね。脳みそが頑張って働いているんだよ。」と声をかけ、時間をかけて一緒に問題を解いていきました。▼わたしが彼女と出会ってほぼ3年。今、A子さんは、教科書や資料集を使い、自分が大事だと思う箇所に自ら線を引きながら、社会科の学習を好んで行っています。また、算数の問題にも積極的に挑戦しています。▼生活面でも大きな変化がありました。小さな集団の中ではありますが、手を挙げて自分の意見を発言したのです。授業のあと今日の頑張りを励ますと、自分の考えを周りの子に伝えている場面を何度も見るようになりました。▼学校現場は多忙です。授業も行事も、限られた時間の中でどんどん進まざるを得ません。3年の間に一歩ずつ前進したA子さんを見ながら、学校はもっとゆとりのある空間でなければいけないと強く思います。（K・S）

〝目からウロコ〟心に残る言葉がたくさんあった
増える不登校　私たちができることは？
～子どもや保護者たちの願い　先生たちの思い～

当事者や保護者の思いを聞く

2月22日㈬、「不登校」をテーマにした北多摩西教育センター主催の実践講座がありました。

全国で24万人を超す小中学生が何らかの理由で学校に通っていません。当事者の子どや保護者の方はどんな思いで過ごされているのか、先生たちはどんなことに悩んでいるのか…。お互いの交流も願っての講座でした。

最初に小中高で不登校を体験された青年と、お子さんが不登校だった保護者の方に話していただきました。その中で「ひとりの人間として扱ってほしい」とか「原因にこだわらないでほしい」など、その当時思ったことなどが語られました。

「三十人三十葉（色）」一人ひとりを大切に

お二人の話の後、小グループになって交流し、そこで出た質問も踏まえて講師の大沼先生にまとめてもらいました。

大沼先生は「不登校」がこんなに多く生み出されている。その子どもたちを取り巻く環境と、教職員としての対応などについて先生の経験に基づいて具体的に話されました。

「不登校」の子に対する具体的な対応としては、

①指導やアドバイスは後回しにする。

②「最も苦しんでいるのは、この子だ」と受けとめる。

③気持ち・本音を聴く。

④要望・頼みを聴く。

⑤提案を押しつけない。

⑥「仲立ち」を確かめる（決める）。

⑦いわゆる〝不登校・休みがちな子〟が登校したときは…。

登校・不登校に関わらず、「三十人、三十葉（色）」、一人ひとりに寄りそった対応を、ご自分の経験を元に参加者に分かりやすく話されました。感想にもあるとおり、とても「ためになる」講座でした。

（※大沼先生の資料は支部ホームページに掲載してあります。表面にQRコードがあります。）

《参加者の感想から》

○　心に残る言葉がたくさんありました。登校・不登校であるかに関わらず子どもたち自身が「違い」を大切にできるような関わりを教員として心がけていきたいです。

○　とてもよい講座でした。不登校を経験された方、保護者の方のお話は目からウロコのことがたくさんあって聞けてよかったです。

大沼先生のお話は私たち教員がどのような気持ちをもって子どもに寄りそっていくか具体的なお話があり、とてもためになりました。

○　不登校経験者の方、保護者の会のお話を聞くことができ、新たな視点も感じることができました。

○「不登校」という今悩んでいるテーマだったので、多くのことを学ぶことができました。「あわてず、あせらず、あきらめず」という言葉が印象に残りました。今いる目の前の子どもたちを大切にしていきたいと思います。

2月15日㈬、小金井宮地楽器ホールで三多摩地域の労働者・地域と連帯した「2023三多摩国民春闘勝利総決起集会」が開かれました。**（＝写真）**

講演ではアメリカの労働組合がどう賃上げを勝ち取ったかが話されました。

都教組も「給特法」や長時間労働の問題などを集会参加者に訴えました。